

## 日本庭園の新たな魅力創出について（検証の視点について）

## 【論点】 検証項目の妥当性

検証項目	検証の視点
非日常性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺建築物の増加、高木の切り下げ等による景観阻害</li> <li>・借景の活用</li> </ul>
文化的価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財登録による発信力の向上</li> <li>・文化財登録による改修への制限</li> </ul>
作庭思想の継承／景観の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当時の作庭思想との整合性</li> <li>・植物の生長に伴う景観とのバランス</li> </ul>
気象状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型台風の増加に備えた、倒木の未然防止</li> <li>・真夏日や猛暑日の増加に対応した熱中症対策</li> <li>・真夏日や猛暑日の増加に対応した樹木管理手法（低木類の水切れ、発生する病気の変化など）</li> </ul>
生息動物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラスによる竹林等への景観阻害</li> <li>・ジャンボタニシ（スクミリングガイ）による景観阻害</li> </ul>



日本庭園から見た太陽の塔



日本庭園のカラス




## R 2 日本庭園地区サインの改修について

### 1. サイン整備経過

■**定点サイン・解説サイン（八景に各1基）** **H29 整備**  
 八景の作庭意図や時代的庭園様式など八景の魅力を紹介する


・AR（拡張現実）技術の活用し、能動的に日本庭園を楽しむシステムを導入

季節ごとの風景  
 各時代の情景  
 庭園様式の解説など



■**誘導サイン（園内各所に37基）** **H30 整備**  
 施設の方角や距離を示し、来園者が迷わず目的施設等にたどり着けるように回遊を補助する



・モデルコースの誘導  
 ・トイレ等の施設案内



■**総合案内サイン（大）（正門入り口前に1基）** **R1 整備**  
 ・見所や花などの写真を中心としたアイキャッチとなるもの

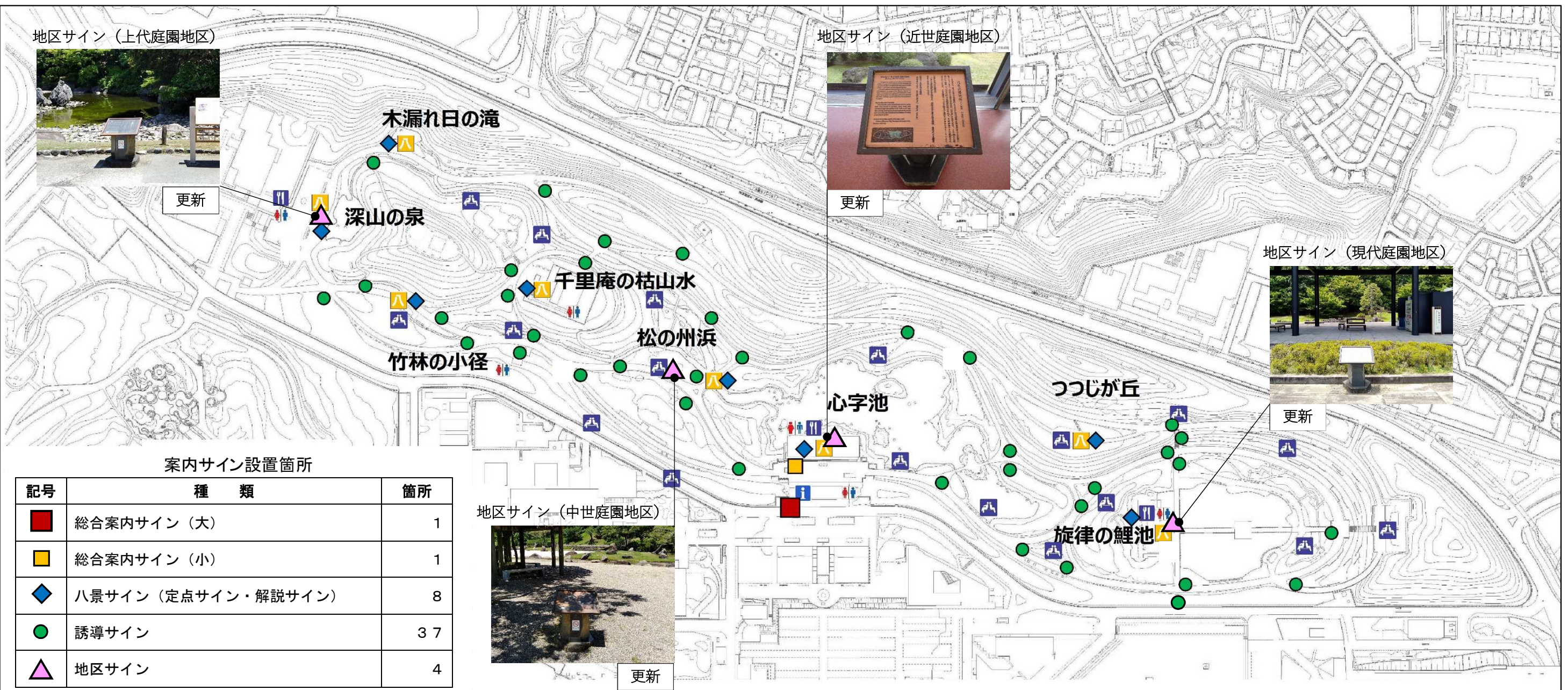
■**総合案内サイン（小）（入口近くに1基）**  
 ・4つの庭園様式、八景の概要等  
 ・園内の簡易マップ

■**地区サイン（園内各所に4基）** **R3 整備予定**  
 ・近辺のエリアの庭園様式等

※インバウンド向けにサインは、4カ国語表記を標準とし、詳細は、AR、QRを活用する。これら活用のためのWi-Fi設置工事を併せて実施。

**H30 整備**



地区サイン（上代庭園地区）

地区サイン（近世庭園地区）

地区サイン（現代庭園地区）

地区サイン（中世庭園地区）

案内サイン設置箇所

記号	種類	箇所
■	総合案内サイン（大）	1
■	総合案内サイン（小）	1
◆	八景サイン（定点サイン・解説サイン）	8
●	誘導サイン	37
▲	地区サイン	4

木漏れ日の滝  
 深山の泉  
 竹林の小径  
 千里庵の枯山水  
 松の州浜  
 心字池  
 つつじが丘  
 旋律の鯉池

更新



## 2. 地区サインの概要

### ●記載内容

・各時代地区（上代庭園地区・中世庭園地区・近世庭園地区・現代庭園地区）を紹介した解説サイン

- ① 時代地区名
- ② 作庭意図
- ③ 各時代の庭園様式
- ④ 各時代の現存する代表的な庭園名と所在地
- ⑤ 時代地区範囲マップ

⇒4つ時代の庭園様式を一度に体感できる、万博記念公園日本庭園ならではの解説サイン

### ●表記言語

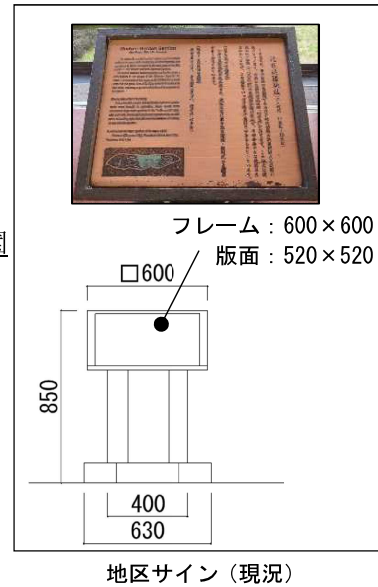
・2か国語【日本語・英語】

### ●本体仕様

・版面、フレーム：銅製      ・本体：玄武岩六方石  
⇒黒ずみより読み取り困難、石と銅板の接続部劣化

### ●設置場所

・各時代地区を代表する八景付近に設置されている  
⇒デザインの違いと距離感があることで、八景サインとの識別が図れている。  
⇒【近世庭園地区】は、中央休憩所の奥まった箇所配置されており、分かりにくい箇所にある。



地区サイン（現況）



左：地区サイン      右：八景サイン（解説・定点）

## 3. 改修の基本的な考え方

●魅力発信      : 「将来ビジョン (H27)」基本方針3 (取組み内容) 「文化と美を体感できる質の高い日本庭園の整備」

～ (抜粋) 日本庭園の魅力を端的に発信するため、景観に優れた見所を日本庭園「八景」と名づけ、上代・中世・近世・現代まで4つの時代の作庭の技術や考え方を示した案内板を設置する。～

- ・日本庭園「八景」      ⇒ H29「八景サイン」新規設置
- ・「4つの時代の作庭の技術や考え方」      ⇒ 既設サインの老朽化に伴うリニューアル

### ●記載内容の踏襲

・万博日本庭園ならではの特徴的な内容であるため、記載内容を踏襲する。

### ●多言語化

・タイトル：4か国語【日本語、英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語】  
解説文      : 2か国語【日本語、英語】

### ●本体仕様（デザイン・サイズ等）及び設置場所の考え方

【景観性】： ・景観及び既設サインとの調和  
・景観阻害とならない位置及びサイズ

【視認性（読み易さ等）】： ・配置効果の高い位置  
・読み易さ（版面高さ・角度）  
・他サインとの識別性

⇒【景観性】と【視認性】は、両立が困難であるが、評価指標を定め、優先事項を考慮し検討を進める。

## 4. 設置場所の検討

### ●設置場所の基本方針

- ・現状の設置位置が主要なルート上にあるとともに、視認性や配置効果が十分に考慮されたものであるため、原則設置位置は変えないこととする。
- ・現状と同様に、各時代地区を代表する八景付近に設置する。

### ●設置箇所

上代庭園地区      : ④深山の泉

中世庭園地区      : ②松の洲浜

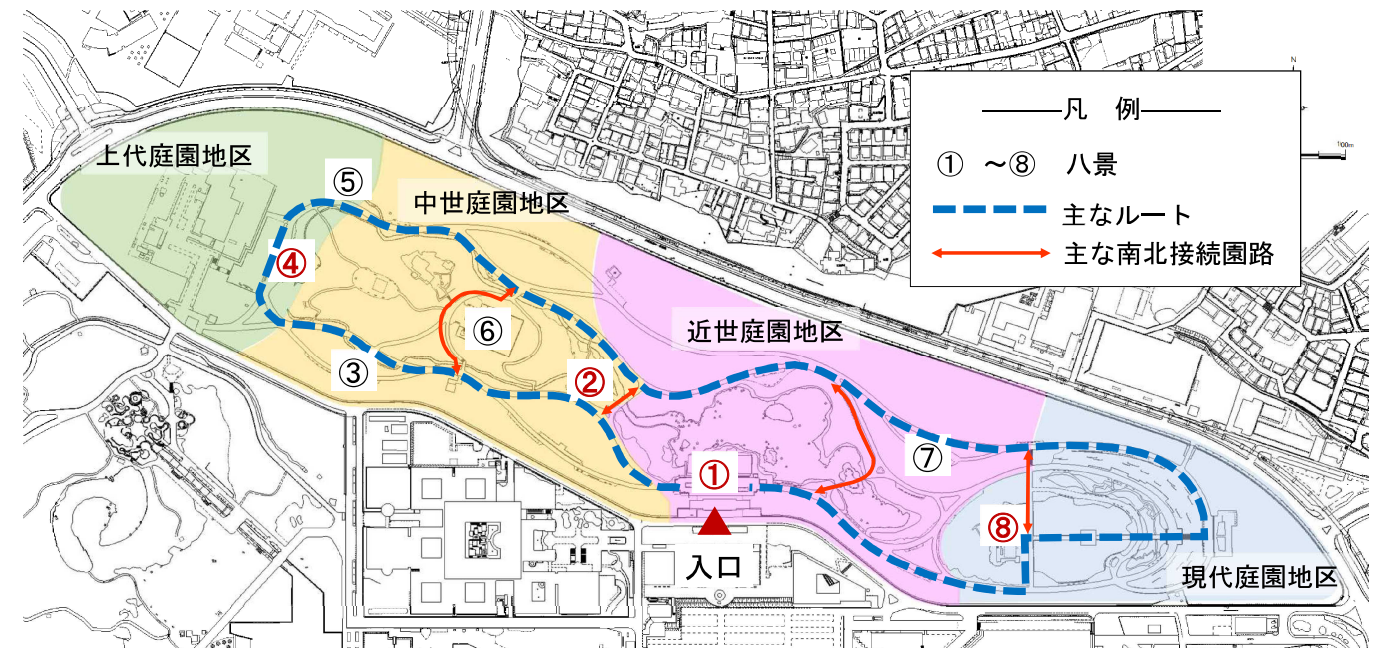
近世庭園地区      : ①心字池

・現在地は、中央休憩所の奥まった箇所であり、園路からの視認性が悪いため、配置効果の高い、入口正面の模型付近に設置する。



現代庭園地区      : ⑧旋律の鯉池

・⑧旋律の鯉池は、こい池休憩所の奥まった箇所であり、園路からの視認性が悪いため、配置効果の高い、こい池休憩所手前付近に設置する。



※主要なルートは、「日本庭園改修基本設計委託報告書 (H29.3)」の日本庭園モデルコース(案)8コースを参考に設定。

5. 地区サインの仕様検討

□仕様等比較表

		A案	B案	C案	D案	E案
設置タイプ 概要		・独立型タイプ ・自然素材 ・最も高さを抑えた案	・独立型タイプ ・誘導サインと共通モチーフ ・高さを抑えた案	・独立型タイプ ・透けるガラス素材 ・読みやすい高さ	・独立型タイプ ・八景サインと同型	・共架型タイプ ・八景サインと同型
姿図・ スケッチ						
仕様・寸法		【本体】 〈本体〉：花崗岩本磨き+コンクリート 〈版面〉：陶板 【印刷】 陶板焼付け(耐候半永久) 【寸法】 W700×H300～515×D850	【本体】 〈支柱・フレーム〉：ステンル塗装仕上げ 〈格子〉：ステンル塗装仕上げ 【印刷】 インクジェット+特殊コート(耐候10年以上) 【寸法】 W650×H265～660	【本体】 〈本体〉：強化ガラス+飛散防止フィルム 【印刷】 インクジェット+UVカットフィルム(耐候5～7年) 【寸法】 W600×H1500	【本体】 〈支柱・フレーム〉：アルミ押出型材+杉化粧材 〈格子〉：ステンル塗装仕上げ 【印刷】 インクジェット+特殊コート(耐候10年以上) 【寸法】 W867×H1200	【本体】 〈支柱・フレーム〉：アルミ押出型材+杉化粧材 〈格子〉：ステンル木目調塗装仕上げ 【印刷】 インクジェット+特殊コート(耐候10年以上) 【寸法】 W867×H1200
景観性	要素	・現況サインと同じ自然石を台座とタイプ ○	・誘導サインと同素材 ○	・新たな景観要素であり、日本庭園にあまり馴染まない △	・八景サインと同素材 ○	・八景サインと同素材 ・八景サインとの柱共用により、基数減 ◎
	背景	・現況サインより低く、最小限の高さで、景観の阻害要素となりにくい ◎	・現況サインよりやや低く、景観の阻害要素となりにくい ○	・現況サインより高くなるが、背景が透ける為、景観の阻害要素となりにくい ○	・現況サインより高くなり、景観を圧迫する △	・現況サインより高く、またサイン本体全体として大きくなり、景観を圧迫する △
	意匠	・自然石と陶板を用いたシンプルで重厚なデザイン ◎	・誘導サインと調和するデザイン ◎	・現代のデザイン要素 △	・八景サインと調和するデザイン ◎	・八景サインと調和するデザイン ◎
視認性	読み易さ	・現況サインよりやや低いが、版面の角度により読み易さの調整が可能 ○	・現況サインよりやや低いが、版面の角度により読み易さの調整が可能 ○	・最も読みやすい掲示高さ ◎	・現況サインよりやや高く、読みやすい ◎	・現況サインよりやや高く、読みやすい ◎
	他サインとの識別性	・全ての地区で、同タイプでの設置が可能ことから、識別しやすい ◎	・全ての地区で、同タイプでの設置が可能ことから、識別しやすい ◎	・全ての地区で、同タイプでの設置が可能ことから、識別しやすい ◎	・全ての地区で、同タイプでの設置が可能であるが、八景サインと同デザインであるためやや識別しにくい ○	・設置場所によって、独立型の併用が必要(近代庭園地区・現代庭園地区)なことから識別しにくい △
耐久性		《耐用年数》60年以上 石材と陶板はほぼ劣化しない ◎	《耐用年数》45年 塗装の定期塗替えは必要 ○	《耐用年数》50年 強化ガラスは耐久性が高い ◎	《耐用年数》20～25年 化粧材(木材)は定期交換必要 △	《耐用年数》20～25年 化粧材(木材)は定期交換必要 △
総合評価		◎ (26点)	◎ (22点)	○ (20点)	○ (18点)	△ (18点)

※◎…5点、○…3点、△…1点として評価を行う。  
※価格については、基数が少数であるため比較対象としない。

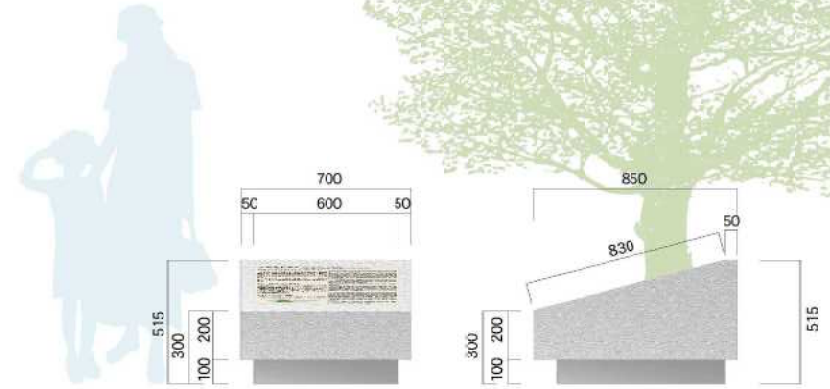


■八景サイン(解説・定点)現況写真(松の洲浜:中世地区)



■地区解説板イメージ【A案】

— 本体仕様 —  
 (体 材): 花崗岩本積み仕上げ  
 +コンクリート  
 (板 面): 陶板  
 — 設置仕様 —  
 (板サイズ): 600×600mm  
 (印刷仕様): 裏板付付



■地区サイン現況写真(松の洲浜:中世地区)



■モニタージュ写真

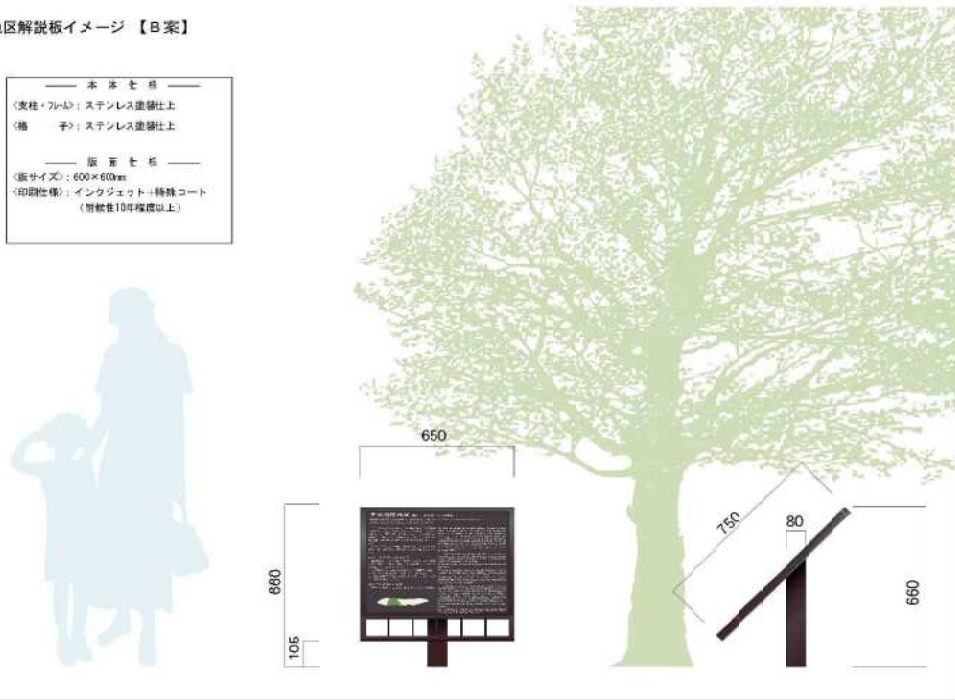




■地区解説板イメージ【B案】

—— 本体仕様 ——  
 〈支柱・フレーム〉：ステンレス塗装仕上げ  
 〈パネル〉：ステンレス塗装仕上げ

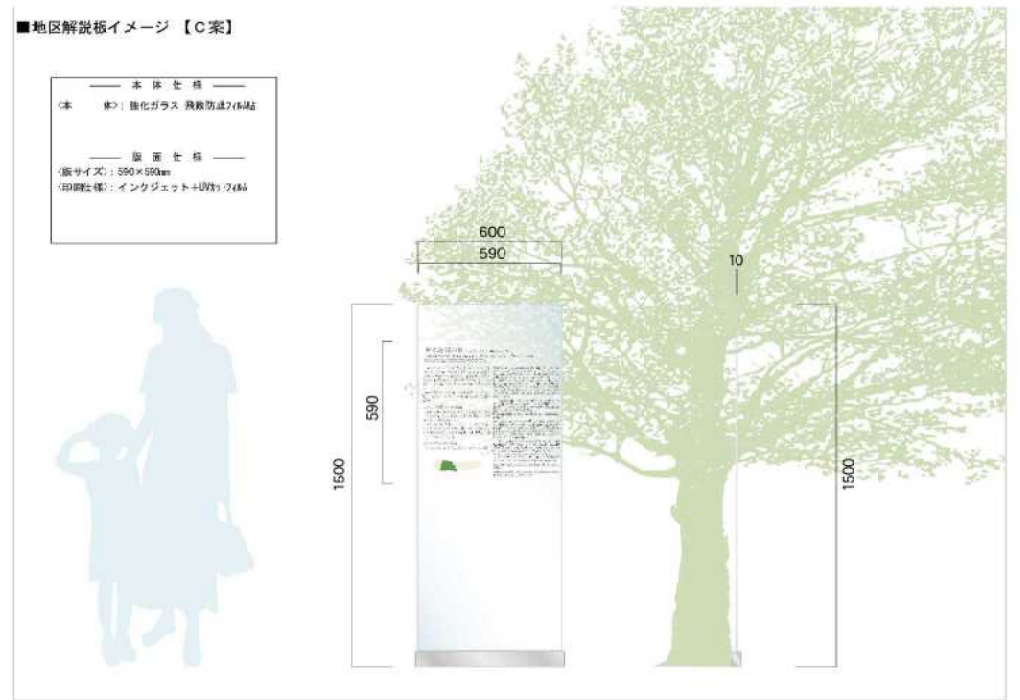
—— 版面仕様 ——  
 〈版サイズ〉：600×600mm  
 〈印刷仕様〉：インクジェット+特殊コート  
 (耐水性10年程度以上)



■地区解説板イメージ【C案】

—— 本体仕様 ——  
 〈本体〉：強化ガラス 飛散防止フィルム貼

—— 版面仕様 ——  
 〈版サイズ〉：590×590mm  
 〈印刷仕様〉：インクジェット+UVカット



■モニタージュ写真



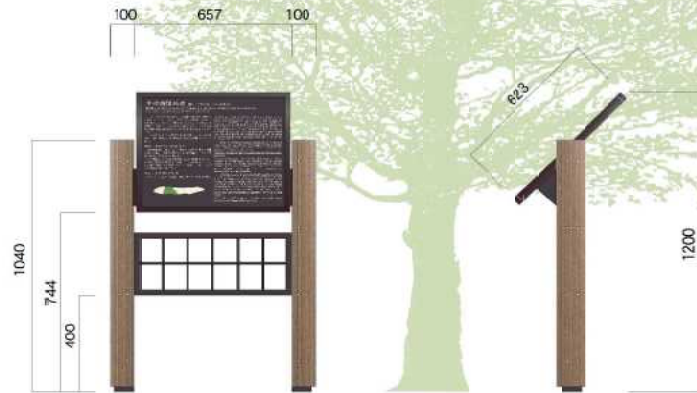
■モニタージュ写真





■地区解説板イメージ【D案】

—— 本体仕様 ——  
 〈支柱・フレーム〉：アルミ押出型材塗装仕上  
 十七歳村〈杉防腐処理加工〉  
 〈格子〉：ステンレス木目調塗装仕上  
 —— 版面仕様 ——  
 〈版サイズ〉：600×584mm  
 〈印刷仕様〉：インクジェット・特殊コート  
 〈耐候性〉10年程度以上



■地区解説板イメージ【E案】

—— 本体仕様 ——  
 〈支柱・フレーム〉：アルミ押出型材塗装仕上  
 十七歳村〈杉防腐処理加工〉  
 〈格子〉：ステンレス木目調塗装仕上  
 —— 版面仕様 ——  
 〈版サイズ〉：600×584mm  
 〈印刷仕様〉：インクジェット・特殊コート  
 〈耐候性〉10年程度以上



■モニタージュ写真



■モニタージュ写真

